

# 平成27年度事業計画

特定非営利活動法人 日本翻訳者協会

## 1 事業実施の方針

日本翻訳者協会設立時の指針・使命を促進し、会員のための活動・事業を継続かつ、地域により偏っている活動を改善し、広範囲にわたり活動を広げ、本法人の公益性を増強する活動を積極的に取り入れる。また、前年度に比較して20%以上増えた会員に適切なサービスを提供するために、ウェブサイトの改善等をする。

## 2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数
分野別分科会	分野別分科会は前年度に引き続き、法律翻訳、製薬翻訳、通訳、自主出版、エンターテインメント翻訳、翻訳ツール、特許翻訳分科会による研修会・ワークショップを開催。また、他の分野の分科会の発足を念頭においている。	各分科会とも年平均5回研修会・ワークショップを開催。6月には本協会の国際会議前に分科会を開催、合同でネットワークの機会を提供。	東京、関西、仙台 オンラインでの研修会は全国・海外含む	各分科会の実行委員平均6名 合計36名	会員および一般オンラインによるものは会員に限定 受益者は延べ約1000人
地域別分科会	東京分科会、関西地区分科会、東北分科会は翻訳に係る種々のトピックに沿って、ワークショップ、研修会を実施。 東京分科会の一部はウェブで公開。 海外在住の会員（本協会の約40%）のために、海外における地域別分科会を設立、開催を奨励する。	東京分科会は6月と8月を除き、毎月定期的開催。関西地区は年8回、東北分科会は年4回開催予定。 英・米・豪各地において、開催を奨励。	国内において は東京、関西地区、仙台他。 海外での活動は未定	各分科会実行委員は平均6名。 合計19名	会員及び一般オンラインによるものは会員に限定。受益者は延べ約800人。
翻訳コンテスト	翻訳者養成の目的で、新人翻訳者を対象に、会員、非会員を問わず、広く募集し、英日翻訳部門で5名、日英翻訳部門で5名を受賞者として選出。 平成27年度にはPRを強化し、応募者募る予定。	平成27年10月～平成28年3月	全国・海外	審査員も含め13名	実務翻訳経験3年未満の会員および一般

E-塾	実務翻訳者にオンラインで3、4ヶ月間翻訳ワークショップを提供。会員に対する有効な活動であり、希望する会員が多いことから、本年度からより多くの会員が参加できるように分野別分科会にも参加を促し、調整する予定。	平成27年4月～平成28年3月	全国・海外	3名～6名	会員に限定。過去、1回6～8名、合計10数名が受益していたが、これを拡大したいと考えている。
エッセー集作成・配布	「2015翻訳者の目線」を出版。会員、企業、教育機関に無料配布。 協会発足30周年特別版を出版予定	平成27年5月～平成27年11月 発行予定日は平成27年9月末日	編集部は東京。寄稿者は全国・海外	10名	会員、一般、教育機関
英日・日英国際翻訳会議 (IJET)	英日・日英翻訳者・通訳者のために情報、ワークショップ、研修会を開催。国際会議直前にはプレIJETイベントも開催。2015年度のIJETは英国ヨーク市で開催。	平成27年4月～平成28年3月 第26回会議は6月20・21日。第27回会議は平成28年6月仙台にて開催予定。	英国ヨーク市	IJET-26: 20 IJET-27: 15	会員および一般 IJET-26: 150 IJET-27: 300 (見込み)
PROJECT	IJETが日本で開催されない年に、PROJECTを開催するのが常と考えられていたが、この数年実行されていなかったため、本年度から実行に踏み切ることになった。	平成27年10月3日	京都	10名	会員及び一般に公開。参加者は200名弱の予定。
メーリングリスト	メーリングリストは会員の情報・意見交換の場。分野別のメーリングリストも会員のみ。	通年	全国・海外	モデレーター：2名以上	会員のみ
ウェブサイト (SNSも含む) の管理運営	イベント告知、報告など。トピック、分野グループのため、及び、情報公開のために各種SNSを活用。	通年	全国・海外	20名	会員及び一般
外部団体との交流協力	JTF (日本翻訳連盟) の翻訳祭の一部を担当、提供および、情報を提供。JSA (日本規格協会) からの協力要請で、ISO委員会に代表を派遣、検討。FIT (国際翻訳者連盟) の会員として協力支援。	通年 翻訳祭は11月	東京	10名強	不特定多数

#### JAT運営に関する計画：

- 平成26年度の通常総会で、JATの使命・目標を明確にし、長・中・短期計画を発表し、それに従い協会の運営をしていく予定。また、理事会で現状・課題・計画については随時話し合い、対処、改善していく。
- JATは理事も含め100%ボランティアによって運営されているが、理事の日常業務の一部を外注し、平成26年度の通常総会において定款が改訂され、理事の数を増やすことが決まったので、新理事が平成27年6月の通常総会で承認されれば、平成27年から一人当たりの仕事の量も減ることになる。

- JAT の認知度を高めるため、PR 活動を強化するだけでなく、公益性を持ったプログラムを実行予定。

#### 分野別分科会・地域別分科会の活動

- JATENT, JATINT, JATLAW, JATPHARMA, JATTIP, JATTOOLS、JATPATENT の 7 分科会があり、今後も増える可能性がある。新しく提案される分科会が他の分科会と重複しないことを条件に推奨していく方針。
- 経費削減のため、会場費削減のため会場を選び、参加費を課すことになったが、各分科会の完全な独立採算は難しいと考え、平成 26 年度内に試験的に行った参加費徴収の結果を見て、協会としてどうすれば良いか考える予定。
- 地域別分科会は現在東京、関西地区、東北地区で行われているが、会員増加に伴い、地域を拡大し、会員の要望にできるだけ応えられるようにしていく。特に、日本国外の会員は地域別分科会の恩恵を一切受けていないことから、平成 27 年度には国外の活動を積極的に奨励していく予定。数年後には国内外の主要拠点に地域別分科会を設立できるようにする。

#### IJET・PROJECT

- IJET-25 の参加者数は過去最大。IJET-25 の結果・成功要因を分析し、会員・非会員の高い関心を継続させるための手段を考える。
- IJET が海外で開催される年には必ず日本国内で PROJECT を都市圏で開催するようにする。今年度の IJET が英国で開催されるので、PROJECT は京都で 10 月に開催される。また、2015 年は JAT 創立 30 周年記念の年なので、PROJECT 京都は重要なイベントの一つである。

#### 翻訳コンテスト・E塾・アンソロジー

- 翻訳コンテストは若手翻訳者養成と考え、公益性を高める意味合いにおいては有益であるので、宣伝を強化し、応募者を増やすようにする。
- E 塾は確実に会員恩典で、非常に有益な会員のための活動と考える。今年度から回数を増やす予定。
- 「2015 翻訳者の目線」は例年通り 9 月末に出版予定。エッセーを通し、翻訳者がクライアントに理解して欲しいことなどを述べる機会があり、翻訳者同士の情報交換の場としても有効であると考え。

会員全員に一冊無料で送付する予定。また、今まで通り、教育機関、翻訳会社などには無料で送付予定。